

# 令和3年2月市議会定例会一般質問発言通告書（発言順）

## ◎ 代表質問

いばら月曜会

13番 上野 安 是

### 1. 井原市の財政運営について

コロナ禍で地域経済は停滞し、各企業においても非常に厳しい経営を余儀なくされている。市民生活においても、その影響が影を落としている。

そうした中、井原市においては、令和3年度当初予算に、一般会計21,805,000千円、特別会計10,982,500千円、企業会計8,947,029千円、計41,734,529千円が計上された。

選択と集中が求められる中、吟味された予算であるとは思いますが、収支の均衡を図るため、1,154,600千円が財政調整基金から繰り入れを予定されている。

財政調整基金残高は、令和元年度末6,668,519千円、令和2年度末（見込）5,855,657千円、令和3年度末（見込）4,727,688千円と示されている。

税収確保も含め、今後の財政見通しをどのように考えているのか、また、どのように財政を堅持していくのかその考えを伺う。

### 2. 新型コロナウイルスワクチンの接種体制について

国の指示により、井原市においても新型コロナウイルスワクチンの接種が行われる。

先般、専決処分にて15,500千円の事業費が予算化された。

どのような体制で接種が行われるのか、その流れについて伺う。

### 3. 「学校のバリアフリー化」について

令和2年に「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（平成18年法律第91号）」いわゆる「バリアフリー法」と同法施行令が一部改定

された。これに伴い特別支援学校だけでなく、公立の小学校・中学校も「特別特定建築物」に加えられた。同法の施行は令和3年4月である。

市では「学校のバリアフリー化」をどのように進めていくのか考えを伺う。

いばら市民クラブ

15番 西田久志

## 1. 機構改革について

「井原市事務分掌条例及び井原市都市計画審議会条例の一部を改正する条例」いわゆる機構改革であります。どのように変わるのか伺う。

## 2. 新型コロナウイルスワクチン接種について

先日、井原市をはじめ近隣の市町村へ新型コロナウイルスワクチンを保管するディープフリーザー冷凍庫の搬入が始まったとあるが、ワクチンの接種に係るスケジュールの内容を伺う。

## ◎ 個人質問

19番 佐藤 豊

## 1. 新型コロナウイルスワクチン接種に向けた本市の対応について

新型コロナウイルスワクチン接種が、イギリスやアメリカ等の70を超える国で始まり、日本においても、2月17日から医療従事者等から順にワクチンの接種がスタートしています。

本市では、2月1日に新型コロナウイルスワクチン接種対策室が設置され、2月12日には医師会、市民病院とワクチン接種に向けた対策会議が開催されています。

そこで、以下の4点について伺います。

①本市で接種されるワクチンの種類とその確保及びワクチンの管理体制につ

いて

②個別接種の医療機関と集団接種の場所の公表とその時期について

③高齢者や交通弱者への対応について

④副反応に対する相談体制について

2. 既存の紙おしめ助成制度の対象にならない後期高齢者に対する新たな紙おしめ助成制度の創設について

現在、本市では地域生活支援事業と福祉基金助成事業において紙おしめの助成が行われていますが、そのはざま、制度を利用できずに、年金から紙おしめ代を捻出することで経済的負担を強く感じておられる方もおられます。

そこで、既存の紙おしめ助成制度の対象にならない後期高齢者へ、新たな助成制度を作られてはと思いますが、本市の考えを伺います。

2番 多賀信祥

1. 0歳～2歳児の保育の量の確保を目的とした幼稚園利用について

本市は、他市町からの移住や本市での定住のきっかけにしてみらうことを目的として、令和元年度に保育料の無償化などで子育て支援策の拡充を行った。

全国的に保育園の利用ニーズが高く、保育料無償化が更なる待機児童の発生につながることを危惧し、令和元年12月定例会、令和2年2月定例会において一般質問を行った。答弁では、増加する保育ニーズに対応する施策として、幼稚園をその受皿にしていく考えがあるとのことであった。しかし、現在でも保育園の利用ニーズが依然として高く、3歳～5歳児の保育園利用の受皿として幼稚園が利用されにくい状況であるように感じる。

そこで、0歳～2歳児の保育園の利用希望に対応できるように、3歳～5歳児に幼稚園を利用してもらおうための今後の方針について伺う。

1. 空き家の現状と対策について

少子高齢化の時代を迎え、地方自治体のこれからの重要な課題として、人口減少問題と空き家対策が挙げられている。社会情勢の変化により、空き家が増加する傾向にある。市では平成30年度から令和9年度までの10年間の計画期間とする井原市空家等対策計画を策定し、適切な管理が行われていない空き家等に係る問題に対処するとともに、空き家の有効活用にも努めておられるところである。

そこで、今後の大きな行政課題となることが予想される空き家の現状と対策について、本市としての考えを伺う。

6番 西村慎次郎

1. いばら生き生きクラブの活動状況と今後の運営について

いばら生き生きクラブは、平成13年に設立され、子どもから高齢者に至る市民の文化・スポーツ活動の振興を図るとともに、市民の健康づくりとコミュニティづくりに寄与することを目的に活動されている総合型地域スポーツクラブです。

令和3年2月5日のいばら生き生きクラブ運営委員会で、来年度に向けた運営についての説明があり、その運営が大きく変わるように伺っています。

そこで、いばら生き生きクラブについて、現在の活動状況と今後どのように運営が変わるのか伺います。

1番 妹尾文彦

1. シティプロモーション事業の取り組み方法について

先月、井原市シティプロモーション事業として研修会が行われました。

その研修会では、井原市のシティプロモーションを成功させるためには、井原市のイメージを持たせるためのブランディングが必要であり、その柱として美星の星空を選定し、それに関連づけて事業を展開していくのが良いという講師からの意見がありました。

現在、美星町観光協会と市が中心となって、アジア初の「星空保護区」の認定を目指し、取り組んでいるところです。

アジア初の認定が受け入れられれば、この美星の星空は、かなり効果的なものになると考えます。

しかし一方で、市民との合意形成はできているでしょうか。市民の理解を得て、市民が一丸となって進めていくことが、今後のシティプロモーション事業には必要ではないかと考えますが、市として、今後どのように対応して行くのか伺います。

8番 柳井一徳

## 1. 新型コロナウイルス感染症による昨年の小・中学校休校措置の検証と今後の対応について

①昨年の休校措置により減少した授業時間は、夏休みの短縮などにより確保されたが、現時点で、授業や学校運営などに支障はないのか伺う。

②県内の市町や福山市の学校では、教職員や児童・生徒に感染者が出ている。本市では現在のところ、感染者は出ていないが、今後、感染者が発生した場合、学校や家庭が取るべき対応策について伺う。

③現在、校内Wi-Fi構築など学校ICT化を急速に進めているが、将来的には授業の録画配信やライブ配信などのオンライン授業を行う考えがあるのか伺う。

④選択登校制という制度が各地で広がりつつある。この制度は、新型コロナウイルス感染を鑑みて、自主的に学校を休むことを事前に教育委員会に申

請し、家庭でオンライン授業に参加することを選択する制度で、大阪府寝屋川市ではいち早くこの制度を採用し、福岡県や熊本県、千葉県でも採用されている。

そこで、この選択登校制の実施の有無について、教育長の考えを伺う。

## 2. 中学生の自転車通学における自転車保険の加入について

自転車運転時に通行人との接触事故により、家族に多額な賠償が発生する事例が報道されている。

本市では、各学校の自転車通学の生徒に自転車保険の加入を義務付けているのか伺う。

4番 山下 憲 雄

## 1. ふるさと納税に関する取り組みについて

人口減少に加え、新型コロナウイルスの影響により、財源の確保はますます厳しくなると予測されます。本市の安定的な行財政運営に財源確保は欠かせないものです。財源確保の重要な手段としてふるさと納税の活用はどの自治体でも取り組まれています。

ふるさと納税は、財源確保と地域活性化への効果は大きいものと考えます。本市では、ふるさと納税にどのように取り組んでいるのか、以下の4点について伺います。

①過去3年間におけるふるさと納税の寄附実績及び今年度の状況について

②ふるさと納税の寄附者を増やすための取り組みについて

③クラウドファンディングに対する取り組みについて

④企業版ふるさと納税を活用する事業の実施について

1. 敬老会事業について

令和元年12月定例会で質問した敬老会事業について、「敬老会そのもののあり方について、地域の皆様のご意見をいただきながら検討してまいりたいと考えております。」との答弁でありました。

その後、検討の状況について伺います。

2. 井原市女性協議会解散後のあり方について

井原市女性協議会が解散すると聞きました。当協議会が担ってきた地域での役割は、市全体においても大きいものがあったと思います。

解散後、女性の社会進出等を含めて、市ではどのような考えなのか伺います。

3. 消防団員のなり手不足と負担軽減について

全国的に消防団員の減少が続いている中、本市においても消防団員のなり手がいないと言う声を聞く。

消防団活動の夜間、長期間の厳しい訓練などにより、家族との時間が犠牲になることなどが、消防団に入らない理由だと聞いたこともある。

そこで、消防団活動を見直し、団員の負担軽減できないか伺います。

1. 井原市の公共工事の発注状況等について

災害復旧工事を含めた公共工事の発注状況及び進捗について伺う。

2. 「ふるさと井原の未来を創るひとづくり事業」における人づくりについて

市は、人づくりをどのように考えているのか具体的に伺う。

3. 「古き時代の栄華に触れる井原デニムで元気なまちの再興事業」の現況について

市では「古き時代の栄華に触れる井原デニムで元気なまちの再興事業」について支援しているが、一般社団法人井原デニムストリート及び舞鶴楼の現況について伺う。